

48号  
(4月号)  
2017年  
4月1日

七里ヶ丘子ども若者支援研究所  
**それが社会参加だ!**

住所:鎌倉市七里ヶ浜東 2-31-12  
連絡先:090-7212-4055  
Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp  
編集長:新舛秀浩  
発行編集責任者:滝田衛

**コラム風** 研究所も4年。会費納入で活動支援を頂く会員が計127名にのぼり、感謝申し上げます。子ども若者31人に寄り添い、通信・応援団会議はそれぞれ48号(回)、実績です。

## 社会参加への願いの共有を



不登校や社会的ひきこもり講演は横浜・横須賀・鎌倉・小田原・逗子市で、発達障害と寄りそう地域づくり講演を支援学校やコーディネーター研修会で行いました。「発達障害支援法」「子ども若者育成支援推進法」が地域に広がる実感で

す。一方まだまだ理解が深まらず、時に偏見感じます。

3月11日座間市で「共に生きていこう」をテーマに川辺順子・涌井貴暁さんと3人(上写真)で講演し、19日は「どうして不登校ひきこもりになるのか」鎌倉市の講演会。新舛秀浩さん(右写真)が飛び入り快調トークでした。応援団も外へ飛び出します。



## 時代はどこへ向かうのか 世代の交代へ

「昔は不登校、ひきこもりなんていなかった!」と同世代以上の人たちが話します。相談に来る30~40代の大人も言います。「今の子どもたちは・・・」につながる世代論、断絶を感じます。

僕の個人的な体験です。小学2年、担任に連れられて学校へ来ていない級友の家庭訪問に行きました、1958年は実に貧しかった。中学1年、仲間と学校へ来ないS君の家に放課後遊びに行き足の速い彼とよく走りました。中学2年、H君は水虫に悩み(仮病?)時々休んでいました、会話の楽しい僕の親友でした。高校2年、僕の後席T君、ビートルズ“ホワイトアルバム”を貸してくれましたが9月?から消えました、スーッと。大学4年時、U君が消えました。僕は留年しました(笑)。

だから冒頭の発言はアリエヘン!と僕。次世代への世代交代への希望を寄せる時と実感。  
**「無知の涙」 貧困と無知に獄中で向き合う永山は“わたくしごと”**

1969年永山則夫(1949年生)は4人を殺害した。僕より2歳上。永山の生い立ちは極貧、小中学校に通えず不登校、東京へ集団就職する。職を転々と横須賀・神戸・海外へ夢を広げ転がるような自分探し。Y市米軍基地で銃を盗み死への道中、警備員・タクシー運転手にとがめ追いかけられ銃で4人殺害する。事件当時は未成年。獄中で日記「無知の涙」を書き出版。その後も「木橋」等を書き文学賞を受賞し、被害者への賠償と貧しい海外の子どもたち支援をすすめた。死刑判決、1997年死刑執行、享年48歳。少年事件の死刑判例は永山則夫が基準。

犯罪、殺人は許されない、止めたい。しかし社会は自己責任(貧困など)や無理解で子ども若者をいじめや犯罪へ追いこむ。子ども若者の心の問題ではない、子ども若者は社会的存在なのだ。大人が“わたくしごと”と、子ども若者への信頼を築き未来を語る時と思っている。(滝田衛)

# 実習をもっと楽しく

龍崎明信さん(会社員)

「若者の自己肯定感を高める」をテーマに活動しております。<http://little-edison.com>(龍崎ウェブサイトです)



その一環で横須賀の中学校と関わらせて頂いたときに、参加学生を対象にアンケートを取らせて頂いたことがあります。「学校は楽しいですか？」という質問には半数が楽しいと答え、数人の学生が楽しくないと答えていました。次に「技術家庭科の時間が増えたらいいと思いませんか？」の質問に対しては、やはり半数が「そう思う」と答えていました。ここで「学校が楽しくない」と答えた学生に注目してみると、次の質問で全員が「技術家庭科の時間が増えたらいい」と回答していることに気づきました。学校が楽しくない、と思う理由は様々だと思いますが、楽しくない場所で自分の自己肯定感を作ることは難しいだろうと推測したのです。逆に技術家庭科が楽しいのであれば、そこで自己肯定感を作ることはできないかと考えました。技術家庭科に限りませんが、実習は座学とは違い、過程や結果が体感できるかなり具体的な経験だと思えます。何かに夢中になり、取り組んだ結果は自信につながるとしており、実習の具体的な経験は、自信、つまり自己肯定感への入り口になるだろうと考えました。しかし、実習の時間は減っていると言います。実習の時間を増やすことはできません。であれば、もっと実習を楽しく、もっと身近にできないかと考えました。詳細は現在企画中ですが、実習には欠かせない「教材」や、実習への導入として「その実習がどのような成果につながるのか？」などをコンテンツとした、web 情報誌のような形で表現できないかと企画しております。この活動が若者の自己肯定感の入り口となれば幸いです。

## 必要とされる喜び！

新舛秀浩(すぐそこにあること執筆中)

3月22日鎌倉市で行われたインクルージョンネット主催「中高年齢化するひきこもり者と家族への支援を考える」に参加してきました。東京大学玄田教授のお話がとても印象に残りました。秋田県でのひきこもり支援において、支援者が当事者との話の中で車の運転が特技であり趣味であることが判明し、高齢者の買い物に行く手伝いをしてほしいと当事者に話しかけたそうです。そういった経緯を経て、高齢者の買い物に行くための送迎、荷物を運ぶ高齢者の手助けをし、高齢者が当事者を必要とし、なくてはならない存在になりました。当事者を一方的に支援するのではなく当事者がなくてはならない存在になる素晴らしい関係だと私は思いました。ひきこもり経験者の私は常々、ひきこもりから脱出するのも偶然の機会を増やす事と考えています。そこで、代表理事の鈴木晶子さんの固い絆・つながりも悪くない。しかし、緩い絆・つながりを増やすことで「偶然や新しい発見」につながる。そうした緩いつながりの重要性に気づかされました。

こうした場で個別の問題に対応することは難しいと思えます。しかしこの話がフェイスブックやブログで多くの人たちにシェアされ、ひきこもっていてもいいんだよ。そんな社会になれば、ひきこもり当事者、ご家族の方々が「世間体が悪い」と悩む必要がなくなるのかもしれない。

<u>【ご参加下さい】</u> 応援団会議は横須賀・市民サポートセンターで行います。誰でも参加できます。途中参加・中座歓迎です。	4月研究所開設日程 相談時間10時～16時土日訪問はご相談			
	2日(日)	pm2 実行委3役会	13日(木)	Am フリーラウンジ
	6日(木)	相談事業		pm 相談事業
	4・5日	他事業	18・19日	他事業
	7日(金)	他事業	23日(日)	Pm2 実行委員会
	9日(日)	pm2 実行委員会	同	Pm4 応援団会議
	10日(月)	他事業	25・26日	他事業
	11・12日	他事業	27日(木)	Pm2 送付作業